

在籍校名 菟田町立南原小学校
職・氏名 教諭 加賀江 祐也

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 生徒指導を意識した授業を推進する生徒指導体制の一考察

－生徒指導部会と各学年会をつなぐ実践サイクルと共有シートの活用を通して－

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

不登校等生徒指導上の諸課題の深刻化等を背景として、令和4年12月に生徒指導提要（改訂版）が示された。以前は、日々の教育活動において特に留意することとして示されていた三つの内容が、生徒指導提要（改訂版）においては、生徒指導の実践上の視点として「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の四つに改められた。また、生徒指導が2軸3類4層構造で示され、発達支持的生徒指導の在り方を改善していくことが、生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につながると述べている。とりわけ、授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場であると述べている。さらに、各学年や各分掌が組織として実効的に機能する体制をつくり、生徒指導の取組を推進すること、取組の効果を定期的に点検し、更新し続けることの重要性についても指摘している¹⁾。在籍校の生徒指導部会は、課題早期発見対応や困難課題対応の生徒指導を重視しており、PDCA サイクルの中で各学年とつながり、発達支持的生徒指導の充実を図るものにはなっていなかった。

以上のことから、全ての教員が生徒指導を意識した授業を推進することにつながる仕組みを整える必要があると考え、本主題を設定した。

イ 研究の目的

生徒指導部会と各学年会をつなぐ実践サイクルと共有シートの活用を通して、生徒指導を意識した授業を推進する生徒指導体制について考察する。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

(ア) 主題について

「生徒指導を意識した授業」とは、生徒指導の実践上の四つの視点を授業に意図的・計画的に位置付けた実践である。「生徒指導を意識した授業を推進する生徒指導体制」とは、教員が生徒指導を意識した授業を自律的かつ協働的に進めていくことを目的とした、生徒指導部会と各学年会が連携し、実効的に機能する仕組みである。また、教員のもつ自律性が「全体最適」に向かい発揮されることで、組織には目的共有、相互作用、価値創造という変容が見られるようになる²⁾ことが明らかになっていることから、本研究では、生徒指導を意識した授業を推進している教員の姿を次の三つで捉える。

- 学校の課題の解決に向けて取組のベクトルを揃えて生徒指導を意識した授業に取り組んでいることに加え、実践の過程で見いだされた課題も共有されている。【目的共有】
- それぞれの実践や子供の様子について積極的に交流し、協働的に授業づくりに取り組むことがスタンダードになり、互いに学び合っている。【相互作用】
- 新たな発想や改善案を積極的に発信・交流することが盛んになり、新たな取組に挑戦している。【価値創造】

(イ) 副題について

「生徒指導部会と各学年会をつなぐ実践サイクル」とは、各学年で生徒指導を意識した授業が確実に実施されるようにするために、PDCA サイクルのD段階において①生徒指導部会での短期目標の設定、②各学年での実践、③各学年会での評価改善、④生徒指導部会での取組の評価といった一連の流れを2週間単位で繰り返すことである。「共有シート」とは、Google スプレッドシートを用いて作成した、目指す学校と子供の姿及び上記に示した①～④の状況等を一覧できるように構成したシートのことである(資料1)。「共有シートの活用」とは、生徒指導主任や各学年の生徒指導担当が生徒指導部会や学年会の内容を入力したり、教員が確認したりしながら、定期的を取組状況の把握や評価改善を行うことである。生徒指導部会と各学年会をつなぐ実践サイクルを繰り返すことによって、生徒指導を意識した授業を行う意義が浸透するとともに、取組の継続につながると考える。また、取組のよさや生徒指導に関する悩みの共有、新たな課題等への気付きや互いの学びにつながり、新たな取組に挑戦する教員の姿が期待できると考える。

イ 研究の内容

本研究は、図1の構想で進める。まず、P段階で、自校の課題把握、目指す学校や子供の姿についての共通理解、各学年の取組の計画を立てるために職員研修会を実施する。次に、生徒指導部会と各学年会をつなぐために、生徒指導主任が共有シートを作成し、目指す学校や子供の姿を共有シートに反映させる。D段階では、生徒指導を意識した授業実践となるように、2週間ごとに、各学年会で実施状況と子供の変容を協議し、学年の生徒指導担当が共有シートに「※・○・△」で評

めざす学校と子どものすがた

ワンピース 学校	目指す学校と子どものすがた	目指す学校と子どものすがた
一人一人が主人公	①自己存在の感受	②共感的な人間関係の構築
	③自己決定の場の提供	④安全・安心な土壌の構築

D② 評価

	授業場面における取組				生活場面における取組			
	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。	ふりかえりに、これからは、目を注いで発表を促す。	オルゴールが鳴ったら、止まっていることをやめて静かに待つ。	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。	ふりかえりに、これからは、目を注いで発表を促す。	オルゴールが鳴ったら、止まっていることをやめて静かに待つ。	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。	ふりかえりに、これからは、目を注いで発表を促す。
1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
評価	変更	継続	継続	変更	変更	継続	継続	変更

D③ 次期短期目標

	次の2週間における取組			
	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。	ふりかえりに、これからは、目を注いで発表を促す。	オルゴールが鳴ったら、止まっていることをやめて静かに待つ。	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。
児童の学ぶ姿のよさを認め、適切に評価を促す。	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。	ふりかえりに、これからは、目を注いで発表を促す。	オルゴールが鳴ったら、止まっていることをやめて静かに待つ。	児童が発表するとき、発表が発表するときは、目を注いで発表を促す。

資料1 共有シート

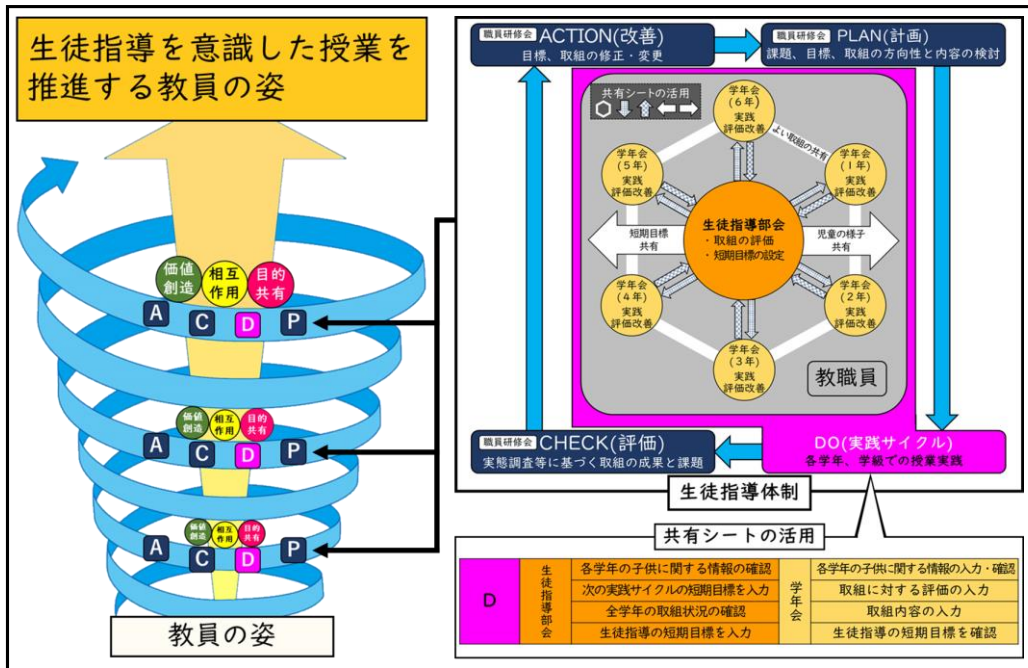


図1 研究構想図

備し入力する。また、生徒指導部会では、共有シートで各学年の取組の実施状況を確認し、取組の評価と次の短期目標の設定について協議した結果を共有シートに入力する。C・A段階及び次のサイクルのP段階では、各学年が共有シートを活用して、成果と課題の分析及び改善点について協議し、次の取組の計画を立てるための職員研修会を実施する。

本研究においては、目指す教職員の姿は表1のように段階的に高まると考え、表2の研究の年間計画で進める。

表1 各PDCAサイクルにおける目指す教員の具体的な姿

	サイクルⅠ期	サイクルⅡ期	サイクルⅢ期
目的共有	目指す学校像、目指す子供像についての共通認識に照らして学年の子供の実態を捉え、生徒指導を意識した授業に取り組んでいる。	目指す学校像、目指す子供像についての共通認識に照らして学校全体の実態を捉え直し、生徒指導を意識した授業に取り組んでいる。	学校の課題の解決に向けて取組のベクトルを揃えて授業づくりに取り組んでいることに加え、実践の過程で見いだされた課題も共有されている。
相互作用	短期目標を達成するために、学年で話し合っ具体的な手立てを考え、生徒指導を意識した授業に取り組んでいる。	それぞれの実践や子供の様子について積極的に交流し、学年を超えて協働的に生徒指導を意識した授業に取り組もうとしている。	それぞれの実践や子供の様子について積極的に交流し、協働的に授業に取り組むことがスタンダードになり、互いに学び合っている。
価値創造	取組の成果や課題について考えている。	それぞれの学級のよい取組を取り入れたり、参考にしたりして、よりよい授業づくりに生かしている。	新たな発想や改善案を積極的に発信・交流することが盛んになり、新たな取組に挑戦している。

表2 研究の年間計画

段階	時期	場の設定			主な役割と働きかけ			主なねらい	活動内容	方法	
		職	生	学	生徒指導主任	学年主任	生徒指導担当				
P1	8/5 (金)	○			(前)生徒指導について情報収集、説明・協議用スライド作成 (中)全体進行、説明			・課題把握 ・目指す学校と子供の姿についての共通理解	・グループ及び全体での意見交換と合意形成	・ワークショップ形式 ・Google スライドを用いた意見の共有と可視化	
	9/2 (金)		○		(前)共有シートの作成、部会の招集 (後)共有シート閲覧の呼びかけ		(前)共有シート入力 (後)部会の内容を伝達	・短期目標の設定 ・子供の情報共有	・各学年の実態を基に、短期目標について検討 ・子供の様子について報告・相談	・共有シートの項目について部会の教員全員で協議 ・部会の内容は共有シートに反映させる	
	週に1回			○	(前)招集 (中)進行		(中)共有シート入力	・短期目標に対する取組内容を決定	・具体的な授業場面を想定して手立てを協議	・共有シートを活用して学年で協議	
	週に1回			○	(前)共有シート入力の呼びかけ	(前)招集 (中)進行	(中)共有シート入力	・子供の実態把握 ・取組状況の確認 ・取組の評価	・各学級の様子を共有 ・短期目標に対する取組の評価について協議	・担任による見取り、子供の振り返りに基に協議し、共有シートに入力	
	2週に1回			○	(前)各学年の入力状況と内容を確認、連絡事項の入力 (後)共有シート閲覧の呼びかけ		(前)各学年の入力内容の確認 (後)協議内容の伝達	・各学年の実態把握と共有 ・学校全体としての取組の評価 ・短期目標の設定	・各学年の取組状況と子供の様子を報告 ・学校全体としての取組の評価について協議 ・短期目標について検討	・共有シートを活用して、部会の教員全員で協議 ・部会の内容は共有シートに反映させる	
※ 生徒指導部会後の学年会、生徒指導部会前の学年会、生徒指導部会を一連の流れとして繰り返す(実践サイクル)											
C1	9/30 (金)		○		(前)生徒指導アンケートの案を作成 (後)協議内容を職員会議で提案			・生徒指導アンケートの項目について合意形成	・主任作成の案をたたき台として内容を検討	・部会の教員全員で協議	
	10/14 (金)		○		(前)生徒指導アンケート集約、研修スライドの案を作成	(前)生徒指導アンケートの提出	(前)生徒指導アンケート実施の声掛け	・学校全体としての子供の実態を捉え直す ・研修の内容を決定	・生徒指導アンケートを基に、学校全体としての成果と課題の分析 ・主任作成の案をたたき台として研修の内容を検討	・部会の教員全員で協議	
	10/18 (火)	○			(前)生徒指導アンケートの整理、研修用スライドの作成 (中)全体進行		(前)生徒指導アンケートの整理 (中)グループ協議進行	・I期の取組の評価 ・実態の捉え直し ・II期の中期目標についての共通理解 ・II期の取組の決定	・グループおよび全体で成果と課題、改善点について協議	・生徒指導アンケート等を活用し、ワークショップ形式で協議 ・Google スライドを用いた意見の共有と可視化	
	A1										
D2	10/21 (金)		○		(前)部会の招集 (中)共有シート閲覧の呼びかけ		(前)共有シート入力 (後)部会の内容を伝達	・短期目標の設定 ・子供の情報共有	・各学年の実態を基に、短期目標について検討 ・子供の様子について報告・相談	・部会の教員による協議 ・部会の内容は共有シートに反映させる。	
	D1と同様に実践サイクルを繰り返す。										
	C2	12/16 (金)		○		(前)生徒指導アンケート集約、研修スライドの案を作成	(前)生徒指導アンケートの提出	(前)生徒指導アンケート実施の声掛け	・学校全体としての子供の実態を捉え直す ・研修の内容を決定	・生徒指導アンケートを基に、学校全体としての成果と課題の分析 ・主任作成の案をたたき台として研修の内容を検討	・部会の教員全員で協議
A2	12/23 (金)		○		(前)生徒指導アンケートの整理、研修用スライドの作成 (中)全体進行		(前)生徒指導アンケートの整理 (中)グループ協議進行	・II期の取組の評価 ・成果を捉え直し ・III期の中期目標についての共通理解 ・III期の取組の決定	・グループおよび全体で成果と課題、改善点について協議	・生徒指導アンケート等を活用し、ワークショップ形式で協議 ・Google スライドを用いた意見の共有と可視化	
D3	1/6 (金)		○		(前)部会の招集 (中)共有シート閲覧の呼びかけ		(前)共有シート入力 (後)部会の内容を伝達	・短期目標の設定 ・子供の情報共有	・各学年の実態を基に、短期目標について検討 ・子供の様子について報告・相談	・部会の教員による協議 ・部会の内容は共有シートに反映させる。	
	D1と同様に実践サイクルを繰り返す。										
	C3	3月上旬		○		(前)生徒指導アンケート集約、研修スライドの案を作成	(前)生徒指導アンケートの提出	(前)生徒指導アンケート実施の声掛け	・学校全体としての子供の実態を捉え直す ・研修の内容を決定	・生徒指導アンケートを基に、学校全体としての成果と課題の分析 ・主任作成の案をたたき台として研修の内容を検討	・部会の教員全員で協議
A3	3月下旬		○		(前)生徒指導アンケートの整理、研修用スライドの作成 (中)全体進行	(前)生徒指導アンケートの提出	(前)生徒指導アンケート実施の声掛け	・年間の取組の評価 ・成果と課題を整理 ・次年度の方向性について検討	・グループおよび全体で成果と課題、改善点について協議	・生徒指導アンケート等を活用し、ワークショップ形式で協議 ・Google スライドを用いた意見の共有と可視化	

※ 場の設定の職、生、学はそれぞれ職員研修会、生徒指導部会、学年会を表す。

※ 主な役割と働きかけの(前)(中)(後)は、それぞれ事前の働きかけ、研修会等の場での役割、事後の働きかけを表す。

(3) 研究の実際

ア P1

生徒指導主任は、自校の課題把握と目指す学校や子供の姿の具体について、全ての教員での共通理解を図るために、職員研修会を実施した。研修会では、教員同士で「こんな学校にしたい」「こんな子供を育てたい」という思いを語り合ったが、教員のもつ思いには、生徒指導の実践上の視点と関連するもの(資料2)が多く見受けられ、それを基に目指す学校や子供の姿について合意形成を図った。また、サイクルI期における取組内容についても協議した。

○愛されていると実感できる学校にしたい。(自己存在感の感受)
○お互いを認め合える子供を育てたい。(共感的人間関係の育成)
○安心して失敗できるような学校がいいですね。(安全・安心な風土の醸成)
○自分の意見がもてるようにしたいですね。(自己決定の場の提供)


資料2 語り合う中での発言の一部

イ D1 (実践サイクル)

職員研修会終了後、生徒指導主任は、目指す学校や子供の姿を示した共有シートを作成した。その後、生徒指導部会で最初の実践サイクルの短期目標について協議し、合意形成を図った(資料3)。その際、各学年の生徒指導担当に、学年会で各学年の取組の評価を行い共有シートに入力するよう依頼した。

主任	○取り組みやすいもので5項目を設定してみました。
教諭A	○5項目は多いので、1週間ごとに分けて取り組むのはどうですか？
主任	○1週間だと定着しにくいし、成果も出にくいので、項目を減らしてもいいので2週間は継続して取り組みたい。
教諭B	○この二つの項目は内容が重なっているような気がしませんか。
教諭C	○この二つはどちらかに絞っていいんじゃないでしょうか。
主任	○みなさんはどうですか。
全員	○(うなずき)
主任	○では、今回は、この四つで取り組んでみましょう。

資料3 生徒指導部会でのやりとり

各学年では短期目標に基づいて、生徒指導を意識した授業を行った。そして、学年会において、取組が十分にできたか、子供の姿がどうだったかについて協議し、「・○・△」で評価し、共有シートに入力していった。学年会での評価に際し、担任の主観だけでなく、子供の思いも把握しながら評価した方が良いとの考えから、Google Formsを用いて簡単な振り返りアンケートを作成し、子供の回答結果を評価の指標として用いる学年の姿も見られた。

生徒指導部会では、各学年の生徒指導担当が取組内容や授業中の子供の様子などを報告した。報告された内容と共有シートに入力されている各学年の評価の状況を踏まえて、短期目標に対する学校全体としての取組の評価を「達成」「継続」「変更」の三つで行った。「達成」及び「変更」の場合、次の実践サイクルの短期目標について協議し、合意形成を図ることができるように進めていった(資料4)。

主任	○挙手をして意思表示をすることについては、働きかけもよくできているし、子供たちもよくできているので達成でいいですか。
全員	○いいと思います。(達成)
教諭D	○話の聴き方については、うなずきながら聴くところまではほど遠いです。まずは体を向けてとか、ちょっとずつ目標を変えながらスモールステップで進めたいです。(変更)
教諭E	○間違いを恐れて、自分の考えを言うのをためらう子が多いです。
主任	○間違っても学級の学びを深めるために大事で役に立つことだということを教師側がきちんと価値付けるというのを新たな目標にするのはどうでしょうか。(短期目標の設定)

資料4 生徒指導部会でのやりとり

振り返りアンケートを実施した学年は、生徒指導部会において取組を報告した。このアンケートは共有シートにリンクが貼り付けられ、他学年でも活用されるようになっていった。また、短期目標を子供とも共有することで子供の意識も高まってきたという他学年の取組を生徒指導担当が学年会で紹介し、協議(資料5)した上で自分の学年の取組に生かす姿も見られた。

担任F	○生徒指導部会でH年生が短期目標を掲示して子供とも共有していると聞いていたのですが、うちの学年でも試してみるのはどうでしょうか。
担任G	○なるほどね。「今週のめあて」にして取り組んでもいいかもしれないね。

資料5 学年会でのやりとりの一部

ウ C1・A1・P2

生徒指導主任は、職員研修会に向けた準備として、目指す学校や子供の姿にどの程度近付くことができたかを分析する際の指標の一つとして用いるために、子供が回答する生徒指導アンケートの案を作成した。作成した案について生徒指導担当の意見を反映させたのち、職員会議で合意形成を図った上で、全ての学級で生徒指導アンケートを実施できるようにした。また、C・A段階の職員研修会の内容を協議するために、生徒指導アンケートを集約しグラフ化した資料と次のPDCAサイクルの中期目標の案、各学年で取組の成果と課題を分析する際のポイント案等の資料を生徒指導部会で提案した。このようにして、職員研修会の内容が決定していった。

職員研修会は、生徒指導主任が会を進行した。まず、生徒指導アンケートの結果から見えてきた取組の成果と課題を提示し、次のPDCAサイクルの中期目標（先生や友達に認められていると感ずることができる学校）について全教員での共通理解を図った。次に、生徒指導アンケートの結果等を基に、各学年で「分析のポイント」に照らして取組の成果と課題を分析した。分析した内容を受けて、生徒指導を意識した授業における具体的な手立てについて学年ごとに協議し、授業モデルシートを作成した（資料6）。作成後に行った近接学年グループでの協議においては、学級の子供に対する見方が広がったり、他の学年の取組に学ぼうとしたりする教員の姿が見られた（資料7下線部）。

エ D2（実践サイクル）

生徒指導部会での短期目標設定のための協議では、D1よりも内容の深まりが見られるようになっていった（資料8下線部）。

学年では、職員研修会で作成した授業モデルシートをもとに実践を行った。短期目標を意識して実践サイクルに取り組む中で、明確な意図をもって、授業中に交流活動を仕組む等生徒指導を意識した授業を積極的に実践しようとする姿が見られた。また、共有シートの活用が定着していく中で、共有シートの情報を見て、他学年の教員に取組の内容をたずね、他学年の取組を積極的に取り入れようとする姿も増えていった。さらに、共有シートの内容を見たことをきっかけにして、生徒指導を意識した授業について学年を超えて交流する様子も活発になっていった（資料9）。

オ C2・A2・P3

12月に実施した生徒指導アンケートでは、10月に数値が低かった項目について改善が見られた。特に、中期目標と関連する項目については大幅な改善が見られ、手応えを感じていた教員も多かった。

C1・A1・P2と同様に、生徒指導部会で職員研修会の内容を決定し、実施した。

職員研修会では、次のPDCAサイクルの中期目標（絆づくりの場がきちんと設定されている学校）について全教員での共通理解を図った。次に、学年ごとにアンケート結果の要因を考え、目指す姿をさらに具体化するとともに、学級担任と担任外の教員が行う手立てについて協議した。高学年のグループでは、新たな授業スタイルを検討していくべきではないかといった案も出された。

(4) 全体考察

目的共有については、5段階評定尺度による意識調査の事前調査、サイクルI期後及びサイクルII期後の調査を比較したところ、数値の上昇が見られた（図2）。職員研修会において、目指す学校や子供の姿について語り合い合意形成できたことや、生徒指導部会において意思決定がなされ

高学年授業モデル	自己存在感の感受	共感的な人間関係の育成	自己決定の場の提供	安全・安心な風土の醸成
導入 □ 既習の振り返り □ めあてをみながら話し合いながらつくり、学習意欲をもつ	前時の学習を振り返る時間を取る。 児童の言葉からめあてをつくりあげていく。	授業の見通しを持って、何が課題なのかをはっきりさせる。	「間違いは宝」と言い続ける。	発表する友達に体を向けて聞く。発表後は反応を示す。 ※素直なつぶやきや反応 ※ジャスターも
展開① □ 見通し話し合い、できそうな方法や挑戦したい方法を選択する □ 自分の考えをつくり、根拠を明らかにして表現する	選択肢を与える	自分の考えを確かめ合う時間を取る。 早く解き終わる児童に「せつない」と思わせる。 自力解決の時間を確保し、自分の考えを共有できるようにする。	友達の間違った考えを認め、一緒に考えてみる。	教師が「ななをさす」を促す。
展開② □ 友達の考えに付け加えをしたり、意見を述べたり、吟味したりする	グループの学習をしくみ、発表者が偏らないように発表する機会を均等に与える。			例 なるほど あーね そうそう
まとめ □ めあてを振り返り、本時を自分でまとめ、次時への意欲をもつ	児童の言葉からまとめをつくりあげていく。			
土台 □ 学習に臨む心構えをもち、用具の準備ができていく	授業終わり、すぐ次の授業の準備をする。			

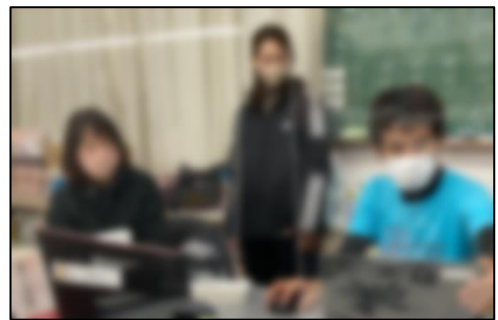
資料6 授業モデルシート

I年担任	○J年生の授業を見たときに挙手が多いなと思ったんですけど、どうやって指導してきたんですか。
J年担任	○「絶対にみんなが授業に参加していないと嫌だ」という担任の思いは伝え続けた。（中略）ちょっとずつ自信がもてるようになってきました。
I年担任	○I年生は、聞き方にも課題があるので、それは聞く習慣にもつながるかもしれないですね。I年でもやってみます。

資料7 他学年の取組について尋ねるやりとり

主任	○共感的な人間関係を深めるために、話の聴き方は大事だと思う。「熱心に話を聴けるようにする」という目標はどうですか。
教諭K	○「熱心に」といっても、学年の実態はちがうし、発達段階によっては難しいこともあります。「熱心」がどんな姿なのか分かるような言葉にした方がいいと思います。
教諭L	○確かに。「熱心」というのは「主体的な姿」とも関わってくることで、ちゃんとイメージできるようにした方がいいですね。
教諭M	○例えば、「最後まで」とか「目を見て」とか、教師が子供を見取る視点が分かるような言葉にすると思います。

資料8 短期目標設定のための協議における発言の一部



資料9 他学年教員との交流の様子

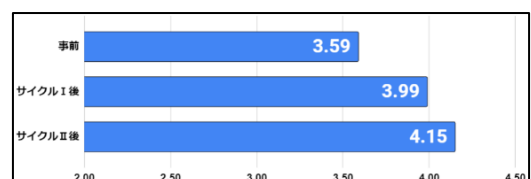


図2 目的共有の項目の数値の比較

ている短期目標を共有シートで確認し、学年での実践を行うことが有効であったと考える。また、目指す学校や子供の姿をもとに、学年独自の目標を立てて学年経営に生かしている学年の姿が見られたことから、学校の課題解決に向けたベクトルを揃えた実践につながっていることがうかがえる（資料10）。さらに、共有シートの効果については、「短期目標を設定したことで、生徒指導の実践上の視点を意識することにつながっている」という項目において、回答した全ての教員が肯定的に捉えていたことから、共有シートを活用して各学年の取組についての評価を可視化したことで、子供の実態を捉え直しながら授業を行うことにつながったと考えられる。

相互作用についても、段階的に数値の上昇が見られた（図3）。また、共有シートについてのアンケートにおいては、「子供の様子を話す機会が増えた」「授業づくりについて話す機会が増えた」という質問に対して肯定的な回答をする教員が多かった。共有シートのよさについて自由記述で回答してもらったところ、複数の教員が「普段見られない部分まで学年ごとの様子を見ることができているのがとてもよい」「他学年がどのような取組をしているのかが分かり、参考にできる」と回答していた。さらに、「共有シートは、担任が困っていることを発信できる場にもなっている」と回答する教員もいた。このことから、共有シートで学年の状況を可視化したことで、学年を超えた交流が活発になり、授業づくりに対する協働的な雰囲気醸成されてきたと考えられる。

価値創造についても、数値の上昇が見られた（図4）。これは、生徒指導部会で各学年の取組を交流する中で得られた他学年のよい取組を、自分の学年の実践に取り入れた学年の姿に見られるように、生徒指導部会と各学年会とのつながりが有効に働いたものと考えられる。また、アンケートで「シートをきっかけに、新たな取組や改善したいことについて職員室で話すようにもなった」という回答も得られた。これらのことから、実践サイクルや共有シートの活用は、よい取組を取り入れたり、新たな取組に挑戦したりするといった価値創造の姿を高める上で有効に働いたと考える。

以上のことから、生徒指導部会と各学年会をつなぐ実践サイクルと共有シートの活用は、生徒指導を意識した授業を推進する生徒指導体制を実効的に機能させる上で、有効であったと考える。

(5) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

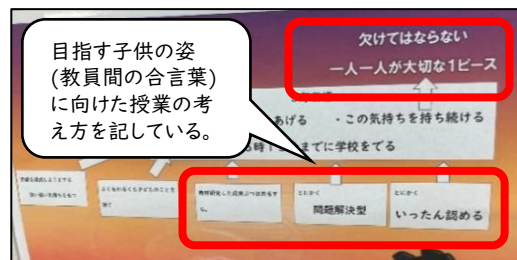
- 実践サイクルや共有シートの活用によって、「目的共有」「相互作用」「価値創造」の姿が高まり、生徒指導を意識した授業を協働的に実践していこうとする教員の姿が引き出された。
- PDCA サイクルの中に、小さなサイクル（実践サイクル）を位置付け、評価改善を行いながら子供の実態に応じた取組を行ったことにより、効果的な取組が実施された。

イ 今後の課題

- 生徒指導部会と各学年会だけでなく、他分掌との連携も図り、組織として機能する生徒指導体制について考えを深めていきたい。
- 発達支持的生徒指導の充実にとどまることなく、課題早期発見対応や困難課題対応的生徒指導においても共有シートを活用し、さらなる支援の充実を図っていきたい。

<引用文献>

- 1) 文部科学省(令4) 『生徒指導提要』 p.14-15、p.17-23、p.46-48、p.75-77
- 2) 福岡県教育センター(2016) 『学校のチーム化を目指すミドルリーダー——学校の経営感覚に基づく20の行動様式——』



資料10 第N学年の目標の掲示物

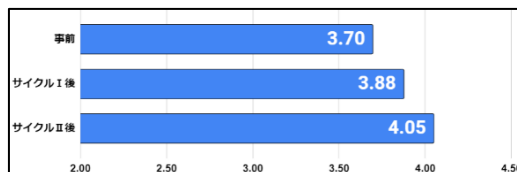


図3 相互作用の項目の数値の比較

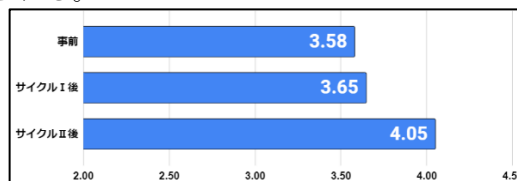


図4 価値創造に関する項目の平均値

【添付資料】

○ 共有シートの記入例

めざす学校と子供のすがた

みんなで話し合っで決めた「めざす学校」と「めざす子供」の姿

ワンピース 学校	失敗しても大丈夫 居場所がある学校	互いの個性を認め合える 共感的に授えてくれる	自分も反打ちも大切に 先生や友だちに認められている	自然にルールを守って、気持ちよく生活できる 人権意識が高い
一人一人が主人公	元気なあいさつが自分からできる 失敗しても諦めずにチャレンジ	何事にも前向きで楽しんで取組む 時と場に応じた行動ができる	友だちを認めたり励ましたりする 相手の立場になって物事を考える	ソーシャルスキルが身に付いている 生活リズムが整っている

生徒指導の実践上の視点 ①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成

A 生徒指導主任から 授業場面でも生活場面でも常に意識する生徒指導の4つの視点

B 養護教諭から 生徒指導主任と養護教諭から生徒指導に関するお知らせがあります。こまめに要チェック！

C 各学級から 困っていることや気になった子供の様子、みんなに伝えたい子供のがんばりなどを記入がんばりを知りたい先生から声を掛けてもらえたら子供たちも嬉しいはず！困っていることも発信し続ければ、チームで対応することにつながるかもしれません☆特に見てほしいところは色をかえて表示するのでもいいかもしれません。

<p>例 普段、外に出て遊ぶことが多い○○さんが、9/3～9/5の3日間、1人で教室にいた。話を聞くと、「暑いから」と言っていたが、少し気になった。授業中落ち着かなかつた○○さんが、最近はとても落ち着いて学習に臨めるようになってきた。</p>	<p>例 5分休みに次の授業の準備をするように指導しているが、休み時間の間に、友だちのものを触ったり、知らない間に落ちていたりするので、直前にさせたほうがいいのか悩んでいる。</p>	<p>例 ドッジボールのルールを何度も守らなかった○○さんと△△さん、□□さんが抜けて遊んでいた。→遊びのルールを守ること、相手のことを思った注意の仕方について話し、指導した。互いに謝罪、保護者にも伝えていた。</p>	<p>例 ○○さん 10/5～10/9の1週間欠席(家の用事)具体的には分からない。△△さん 9/23、24「体調が悪い」わけではないが、学校に足が向かないようだと保護者から連絡があり欠席「学校で何かあったわけではない」と本人は言っているとのこと →24日に、電話で本人と話をし翌日から登校</p>
---	---	---	---

D① 短期目標と取組

短期目標	いつ	どこで	だれが	どのように	なにをする(した)
たとえ間違った意見でもみんなの学習を深めることになることをきちんと評価する。	発表の時	教室	担任	うなずきながら聞いていた子供を	ほめた
児童が友達の発表に反応する	終わりのあいさつのあとに	教室で	担任が	5分休みの過ごし方を確認して	机の上に次の授業の準備をさせてから席を立たせるようにする
児童が自分の考えをかく	いつでも	どこでも	教師が	たちどまって	あいさつをする

短期目標設定後に
空き時間などでちょっと話し合っで事前に決めたことを記入
短期目標を意識して学級でやってみたことを、事後に記入
どちらでもOKです！
また、記入するときに「いつ、どこで、だれが、どのように、なにをする」については、あまり意識しすぎなくてもいいと思います。
大事なのは「意識的に」やってみることで！
だれかが当たり前だと思ってやっていると、ちがうだれかにとつては新たな気付きになるかもしれません。

働きかけ
目標達成のための手立てや声掛けなどの働きかけが十分にできたかどうか、学年で確認し合っで評価します。
子供
見取りだけで評価が可能な場合は、学年で話し合っで評価します。
難しい場合は、子供の発言や授業でのふりかえり、アンケートを活用して評価すると、より実態が分かってくると思います。
「△がついているからダメ」という見方ではなく、子供の現状をできるだけ的確に把握し、現状に応じてよりよい関わり方を見出していくために、評価を繰り返していきます。

D② 評価

働きかけ	授業場面での取組				生活場面での取組			
	児童が友達の発表に反応する	児童が自分の考えをかく	チャイム席を守る	進んであいさつする	アンケートフォーラムのリンクを貼っています。			
1	◎	◎	◎	◎	活用方法 ①自分の学年のアンケートフォーラムのURLをコピー ②クラスルームに投稿 ③子どもが回答 ④結果を確認			
2	◎	◎	◎	◎	短時間でできます。学年目標の振り返り等にも活用できるかもしれません。慣れたら、家で回答させることも可能になると思います。			
3	◎	◎	◎	◎				
4	◎	◎	◎	◎				
5	◎	◎	◎	◎				
6	◎	◎	◎	◎				
評価	変更	達成	継続	達成		継続		

D③ 次期短期目標

授業場面における取組	次の2週間の取組	生活場面における取組
------------	----------	------------

○ 実践サイクルにおける共有シート活用手順

目的			
=学校の全教職員が、同じ目標に向かって生徒指導を行うことにつなげる =学年会や生徒指導部会において、生徒指導の実践上の視点を意識して話し合う時間を確保し、授業実践や生活場面での指導に生かす =それぞれの先生の指導や手立ての「よさ」を共有し、よりよい実践につなげる			
段階	活用の場(時)	内容	備考
0	生徒指導部会	子供の実態などをもとに、短期目標を設定	
↓			
1	学年会(月①)	短期目標達成のための学年や学級の取組について検討	☆進め方の例☆(5~10分) ①短期目標の確認(必要に応じて学年の生徒指導部から説明) ②学年(学級)での取組を決定
↓			
2	(月①~木①)	授業や生活場面において実践	
↓			
3	学年会(木①)	状況確認(必要に応じて取組の強化・修正)	☆進め方の例☆(5~10分) ①手立てを確実に実践できているか確認 ②手立ての継続or修正を検討
↓			
4	(金①~木②)	授業や生活場面において実践	
↓			
5	学年会(木②)	2週間の取組の振り返り→成果と課題	☆進め方の例☆(5~10分) ①働きかけが十分にできたかを振り返り、評価を入力(主観で評価) ②子供の様子はどうだったか話し合い、評価を入力(子供自身の振り返り等も併用しながら評価することが望ましい) ③現時点で課題と感じていることを出し合う
↓			
	随時	気になったことやよかったことなどはどんどん入力 とごん情報共有	
↓			
6	生徒指導部会(金/2w)	各学年の振り返りの結果から、学校全体の取組を評価 次の2週間の短期目標を設定する 気になる子供(全体)の様子や対応の仕方について共有 部会後、各学年で伝達	☆進め方の例☆(30分以内) ①各学年の取組状況と評価、課題に感じていることを報告(よかったところを積極的に報告して共有する) ②学校全体の短期目標に対する取組を評価(予め評価の基準を決めておく) ③短期目標の設定(評価の基準も決めておけるとなおい) ④気になることを共通理解(今後の対応の仕方を報告or必要に応じて協議)(いじめの認知は部会全体で行う) ⑤養護教諭、生徒指導主任から
↓			
	各自(生徒指導部会後)(随時)	連絡事項を確認(項目A,B) 気になる子供の様子を把握(項目C) 各学年の取組と状況、次期短期目標を確認(項目D)	☆周知の仕方☆ ・各学級(支援学級も含む)には生徒指導部の先生が伝達、各自でも確認 ・質問があれば、生徒指導主任や同じ島の生徒指導部の先生に聞く
↓			
1へ			

活用の手順

○ 職員研修会(C2・A2・P3)で、分析と次の手立てを協議する際に使用したスライド

抽出したアンケートの項目を記入	
状況 <small>(数値に明確な改善あり) ⇒十分達成 (期待ほどではないが、数値に改善あり) ⇒達成 (数値に改善がみられなかった) ⇒未達成</small>	
要因として考えられること	○
目指す子どもの姿	○
改善策 または 継続(強化) すること	担任
	担任外
※ 必要に応じてフォントサイズを変更してください。	

○年生